

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000088		
法人名	中城興産株式会社		
事業所名	グループホームつくえ(西ユニット)		
所在地	〒028-8402 岩手県下閉伊郡田野畑村机299番地		
自己評価作成日	令和8年7月1日	評価結果市町村受理日	令和8年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の前に畑があり、農作業が好きな方には自由に植えてもらっています。地域イベントにも積極的に参加しています。毎月郷土料理の日として利用者様と一緒に料理を作ったりしています。閑静で散歩をするにもよい所だと思います。ストレスなく笑顔で過ごせるよう心掛けて介護をしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

廃校となった小学校校舎を改装して整備された事業所で、体育館は村の福祉避難所として指定されており、認知症カフェなど地域交流の資源としても日常的に活用されている。地域とのつながりを大切にするため、事業所の広報誌を村全戸に配布しており、事業所の理解と関心を促すことに効果を上げている。事業所の基本理念に基づき利用者に日々楽しんで生活してもらいたいという支援体制が徹底されており、利用者に寄り添いながらの介護支援にあたっている。事業所開設からのメンバーで職員同士のコミュニケーションも良く、介護支援専門員である運営法人の代表と管理者のもと、利用者の笑顔を生み出す取り組みを行っており、利用者や家族の安心につながっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	「経費増減、特定非営利活動法」にわたる保健福祉支援資金			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	それぞれの個性を尊重した理念を掲げ、毎朝朝礼で唱和を行っています。その理念に沿うようその人の特性に合わせた介護を心掛けています。	事業所の理念は、開設当初、社訓のような内容であったが、その後誰にも分かりやすいように「日々笑顔、日々楽しく、自由なあなたらしさを支えるケア」に見直している。理念は各ユニットや事務室に掲示しているほか、毎日の朝礼で唱和しており、日々の介護支援の基本として暗記する程に浸透しており、介護の実践に活かされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域でのイベントに出来るだけ参加し、顔見知りにあえるよう配慮しています。	自治会に加入し、回覧板からも地域情報を入手しており、地域の花植えや草刈り等に参加している。また、日常的に野菜や海産物の差し入れ、敷地内の草刈りを手伝ってくれる方があり、地域と密接した関係性が築かれている。地域の祭りにも準備段階から参加しており、カラオケやバレーボールの練習等の地域行事に体育館を解放しているなど、地域と良好な関係が形成されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症カフェなどに参加したり開催したりで集まった皆さんと勉強したり相談にのったりしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者の状況報告や行事の報告、今後の予定、身体拘束の有無などの報告など行い、今後の運営について広く意見を求め運営に反映させています。	利用者家族の参加もあり、村役場、民生委員、消防署長、自治会長等構成メンバーのバランスが良い。会議では身体拘束の有無についても報告している。様々な質疑、提案等があり、例えば民生委員から敷地内の草取りの提案があり、ボランティア5人を集め手伝いに来てくれたことや、校庭フェンスの撤去について行政につなげるなど、介護支援だけでなく、事業所外観の美化、整備などを含め活発な会議となっている。		

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	認定調査や生活保護の担当との情報交換や避難訓練は消防署などと連携を取るように心掛けています。	村役場からは運営推進会議に毎回の参加がある。また、役場とはメール、電話による連絡など日常的なやり取りがあるほか、地域ケア会議への参加や包括支援センターへ出向くこともある。旧小学校の体育館は福祉避難所の指定となっており、役場からの指示で開設しており、緊密な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関やユニットの出入り口の施錠は一切しておらず、自由に畑や自販機にいく事ができます。ベッド柵も身体拘束に当たらないよう設置しております。スピーチロックも言い換えができるよう指導しております。	身体拘束廃止委員会と虐待防止委員会と一緒に毎月のユニット会議で取り上げ、協議検討し記録している。身体拘束の外部研修は年1、2回参加し、参加した職員から報告・伝達研修を行っている。特に、スピーチロックには注意を払っており、言い換え表を作成して全員で共有している。転倒防止のためのセンサー利用者が3名程あるが、家族に説明し了解も得ている。夜間は施錠するが、日中は利用者が自由に玄関を出入りできる状況である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修にも参加しており職員同士で客観的にみて指摘しあえるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の外部研修に参加するなどして制度の理解を深めるよう努力しています。		

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結時や改定の際は十分に説明を行い、不安や疑問点がある際はその都度答えるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアプラン作成の際も意見をお聞きしますし、面会の際も要望をお聞きし、出来る限り反映できるよう努力しています。	家族とは来訪時に面談の機会を設けている。また、隔年で事業所独自のアンケートも行っており、家族からの要望を受け、請求書や広報誌の送付方法を変えたり、面会場所も居室を含め自由に選んでもらえる対応などに反映している。利用者の掲載について家族の理解を得て、広報誌を年4回村内に全戸配布しており、事業所の様子をわかってもらうような宣伝効果を期待している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	面談や会議の時など意見を聞いたり提案を聞いたりして業務改善を行い生産性の向上を図れるようにしています。	年2回、4月と11月に働き方の希望や家庭事情を含み個人面談を実施している。朝礼やユニット会議でも日頃から意見が出されており、物品管理や洗濯物、入浴のタイミング等を検討し、節約と衛生面に配慮した改善が図られている。様々な検討課題については社長、総務、管理者が職員から意見を吸い上げ、生産性向上を念頭に話し合って反映させることに努めている。。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員の出勤状況や勤務態度、役割・自己採点・上司からの評価により給与や賞与に反映させており、個々の能力に応じて役割を与えたりしています。		

事業所名：グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	介護基礎研修・初任者研修など経験によって段階的に研修を受けてもらっていますし、成長してもらいたい部分がある場合も外部研修に参加していただいています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ケア会議や認知症カフェなどで情報交換していますし、管理者は地域密着協会の会議に参加するなどして情報交換を行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス導入前にご本人様ご家族様から要望等をしっかり確認し、安心して貰えるように職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス導入前、契約時にも不安が無いように確認している。入居してからも安心してもらえるように入居中の様子など電話や広報にてお伝えしています。		

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを通し、ご本人さまとご家族様が必要としている支援を見極めサービスの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お盆拭きやテーブル拭き、床掃除などご本人様に合わせ出来る事は行ってもらっている。郷土料理の時も調理や味付けなども職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の思いを尊重しご家族に電話したり面会に来てもらえるようお話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	村内でのイベントや認知症カフェ、地域の行事などに積極的に参加し、関係が途切れないようにしている。床屋さんや食材配達のスーパーなど地元の人との付き合いを大切にしている。	昨年度から認知症カフェが再開しており、役場の依頼を受け体育館で開催している。この認知症カフェが馴染みの人と会う機会になっている。また、理容師が毎月訪問しており、新たな顔馴染となっている。食材配達の店員の配達がてらの面会、広報誌がきっかけで訪ねてくる知人、廃校となった母校の卒業生の故郷探訪等もある。地域の祭りや行事を見に出かけることも多く、家族が対応しての墓参りや外泊もあり、馴染みの継続が支援されている。	

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様間での不安や不満など状況をみて席の配置など工夫し、孤立せずそれぞれ関わり合いがもてるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院などの理由で退所してからもご家族様の相談をフォローし今までの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中で希望や意向が聞かれた時は職員間で話し合い希望に添えるようにしている。また、ケアプラン作成時にご本人様ご家族様から希望・意向を確認している。	言葉で意思疎通できる方が多く、難聴の方へは筆談や身振り手振り、意思表示が困難な方は仕草や表情などから推測して対応している。物であれば実際に見せて選んでもらうなどの工夫をしている。利用者の普段と違う様子は申し送りに記入するとともにタブレットでも共有している。本人の思い、要望は本人の話した言葉をそのまま記録に残すなど、丁寧な対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご本人様ご家族様より今までの生活歴など確認している。入居後もご本人様の会話などから聞き取りサービス向上に努めている。		

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	タブレットや業務日誌に様子やバイタルなど記入し職員間で共有している。入浴時の皮膚の観察、食事量など現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3ヶ月に1回、ケアプラン作成時にご本人様ご家族様から意向を聞き、ユニット会議時に担当職員以外からも意見を聞き、介護計画に反映している。	事前調査は介護支援専門員である社長と管理者で行い、入居後初回プランを暫定的に各ユニットのケアマネジャーが作成する。3ヵ月を目安に見直しを行い、生活が安定してくれば6ヵ月ごとに見直している。モニタリングはケアマネジャーが行い、職員全員によるカンファレンスで検討する。在宅時と比べて要介護度が良い方に改善した方もある。プランは家族に承認の上、サインをいただき、実践にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	タブレットや業務日誌に日々の様子を記入し情報共有している。サービス担当者会議、ユニット会議での意見を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様、ご家族様からの希望があれば、その時の状況に合わせ対応している。受診対応や面会方法、週1回の理学療法士による個別のリハビリなどニーズに合わせ対応している。		

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	傾聴ボランティア、施設内での法要、花植えなど地域の行事に参加し交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人様やご家族様が希望する受診以外は診療所がかかりつけ医となっています。月1回の定期受診インターネットでの病状のやりとりを行い、適切な医療を受けられるようにしている。	ほとんどの方が村診療所をかかりつけ医として、精神科の場合は変更せず、通院を継続している。今春から診療所の医師が変わり、訪問診療から通院対応となっている。毎週木曜日、2～3人を目途に通院対応を行っている。隣市の医療機関に家族が通院対応する利用者もある。突発的な怪我や急病で判断に困る場合は、医療介護専用コミュニケーションツールを活用し、指示を受けて対応している。毎月の訪問歯科診療、週1回の看護師の訪問もあるなど、必要な医療が確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	変化があった利用者様の状態をノートに記入し週1回の訪問時に共有・相談しアドバイスをいただき支援・処置を行ってもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関と密に情報交換している。退院後に安心して生活が送れるよう支援内容を共有し対応している。		

事業所名：グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	診療所や病院と連携を行い重度化や終末期に向けての情報をご家族と共有し安心してもらえるようにしている。	重度化した場合は特養施設等への入所を検討いただくことなどを入居時に家族へ説明し、了解を得ている。看護師の常勤体制、吸痰技術を有する介護職員の増員などが現状の課題として、看取りには対応していない。急変時は医療機関への入院もあるが、救急車を要請した場合、地理的な要素があって到着に20～30分を要することも家族には説明し、了解をいただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年1階の救命講習を職員全員受講している。急変時の対応が出来るよう常に予測し共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回は避難訓練を実施している。消防署立ち合いを行い、指導や意見をいただいている。当施設は福祉避難所となっており、近隣の施設や役場と連携をとりあっている。	ハザードマップ上、周辺に山や川がなく浸水や土砂崩れの警戒区域にあたっていない。旧校舎の耐震性も高く体育館は福祉避難所として指定されているほど強固である。火災想定避難訓練を年2回実施し、消防署の立会いもいただいている。訓練時、近所から3人程が駆けつけてくれるなどの協力体制が取られている。食料等の備蓄品は3日分を備え、自動通報装置、AEDの設置もされている。	連絡系統図を作成しているものの、実際にはこれまで通報訓練を行っていないとのことなので、BCP(事業継続計画)に即して通報訓練を計画のうえ、実施されるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	羞恥心を尊重し、排泄や日常的なケアなどプライバシー保護に配慮している。地元の言葉を使用しながらも言葉がけには注意し、コミュニケーションを図っている。	普段から利用者の尊厳を大切に声掛けに努めており、同じ苗字の方もあるため下の名前に「さん」づけの呼称としている。広報誌への写真掲載は必ず同意を得た上で使用しているが、広報誌への利用者の様子の掲載は家族から希望する声が多くなっている。異性介助拒否があれば対応することとしているが、強い拒否をする方はいない。本人への物品の受け取りにあたっては、家族に確認し、その意向に配慮しての対応としている。	

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段の会話、表情やしぐさなどから、思いや希望を汲み取り実現できるよう努めている。自己決定できるように利用者のペースに合わせている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様個人のペースに合わせている入浴・食事・レク活動など無理強いせず行っている。日々違うので、その日の希望に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時や行事参加などオシャレが出来るよう職員と一緒に服を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様一人ひとりに合わせ、調理や食器拭きなど出来る事をしている。月に1回の郷土料理の日には、利用者様と一緒に準備・調理・味付けなど行っている。	食材は地元のスーパーを利用し、職員は利用者の好みを考えながら調理しており、希望を反映しての刺身提供もある。敷地内の家庭菜園で利用者自らが育てて収穫した野菜を使うほか、近隣の方から日常的にいただく野菜やワカメなどの差し入れも活用している。また、イベントの一環として外食やスナックに出かけたり、毎月「郷土料理の日」「パンの日」等を設定するなど、利用者と一緒に作って食べる楽しみの機会を設けている。	

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人りひとり状態に合わせた食事量を提供している。季節や入浴・運動後にも水分を提供し水分量が確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアの声掛けを行い見守りと清潔保持に努めている。訪問歯科にも協力していただき、清潔保持できるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表で把握したうえで一人ひとりのパターンに合わせ声掛け誘導している。失禁を減らすようにタブレットでも確認している。	利用者は布パンツが4人、他はリハビリパンツを使用している。夜間は、ポータブルトイレの使用が3人、オムツ使用が1人となっている。排泄の状況はチェック表で把握しており、2～3時間おきに声掛け、誘導に努めている。職員はその都度、状況をタブレットに入力し以降の誘導の目安にしている。利用者一人ひとりの状況に応じた介護支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事や水分、運動を取り入れ予防に努めている。排便管理を行い、必要時に下剤を服用している。		

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	希望のタイミングに合わせ入浴している。菖蒲湯やゆず湯など季節感を感じられるようにも工夫している。	入浴は週2回を基本としており、ユニットごとに入浴日をずらして設定することで利用者の気分に合わせ柔軟に対応することができている。入浴を拒否する場合は、時間と人を変えるなどの工夫をしている。長湯をする方は少ないが、職員との会話を通じて思いを聞き出す機会にもなっている。季節に応じて菖蒲湯等の機会もあり、利用者は入浴を楽しみにし、職員もそれに応えた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	温度・湿度・音・照明等注意し、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員が管理し、一人ひとりに合わせた服薬介助を行っている。主治医や薬局と連携し副作用や症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	畑仕事やヤギの世話茶碗拭きやテーブル拭き料理の手伝いなど一人ひとりの能力に合わせた役割を支援している。		

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外気浴、畑仕事、ドライブレクなど希望に沿った支援に努めている。希望により年末の外泊や家族との外出なども支援している。	日常的に利用者の周辺散歩が行われており、玄関先の長椅子で日光浴をしたり、利用者のうち3～4人の方は好きな物を植えるなどの農作業を楽しむこともある。イベントの一つ、ドライブレクレーションとして車2台で花見や外食に出かけることもある。近隣地域のお祭りに出かけ、山車見物なども楽しむことができている。家族が連れ出す利用者は3～4人程あり、外食などを楽しんでいるようである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理できる方は、ご自身で管理してもらっている。近くの自動販売機や外出先でも使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話でご家族とお話しされている。希望であれば施設の電話も利用されている。年賀状を出している方にも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の物を飾るなど、四季が感じられるようにしている。光や温度にも注意し、不快にならないようにしている。	旧小学校の校舎を改装して整備した事業所であることから天井が高く室内は明るい。ホールはエアコン、空気清浄機、加湿器、テレビ、テーブル、イス、ソファを設置し、職員が録画した地元の番組などのDVDを楽しんでいる。利用者のほとんどが日中リビングで過ごしており、かるたやトランプ等のゲームをして皆で楽しんでいる。季節ごとの飾りを皆で作成し、文化祭用の作品を作り、村の文化展に出展している。リビングは台所と一体化しており、調理中の職員の手元を眺められる作りになっているなど、居心地の良い空間となっている。	

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様の入れ替わり時など、変化に合わせた座席位置など変えています。新聞を読まれたりTVを見たりパズルやオセロなど気の合った同志で楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた物を置いたり写真を飾ったりしている。ベッドなどの配置も本人の意見を取り入れている。家族からの贈り物などを置くことによりご本人が過ごし易い環境づくりをしている。	居室は教室を改装したつくりで、クローゼット、ベッド、イス、机、エアコンは全室に完備されている。介護用電動ベッドの利用者は4人程で、他は通常のベッドを使用している。各居室にはほうきと塵取りも設置されており、自分で掃除をする利用者もある。利用者はそれぞれ写真やカレンダー、ぬいぐるみなど馴染みの物を持ち込んでおり、安心して過ごすことのできる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレなど大きな文字で場所が分かるようにしています。掃除が出来るよう、居室にほうきと塵取りを置いている。		